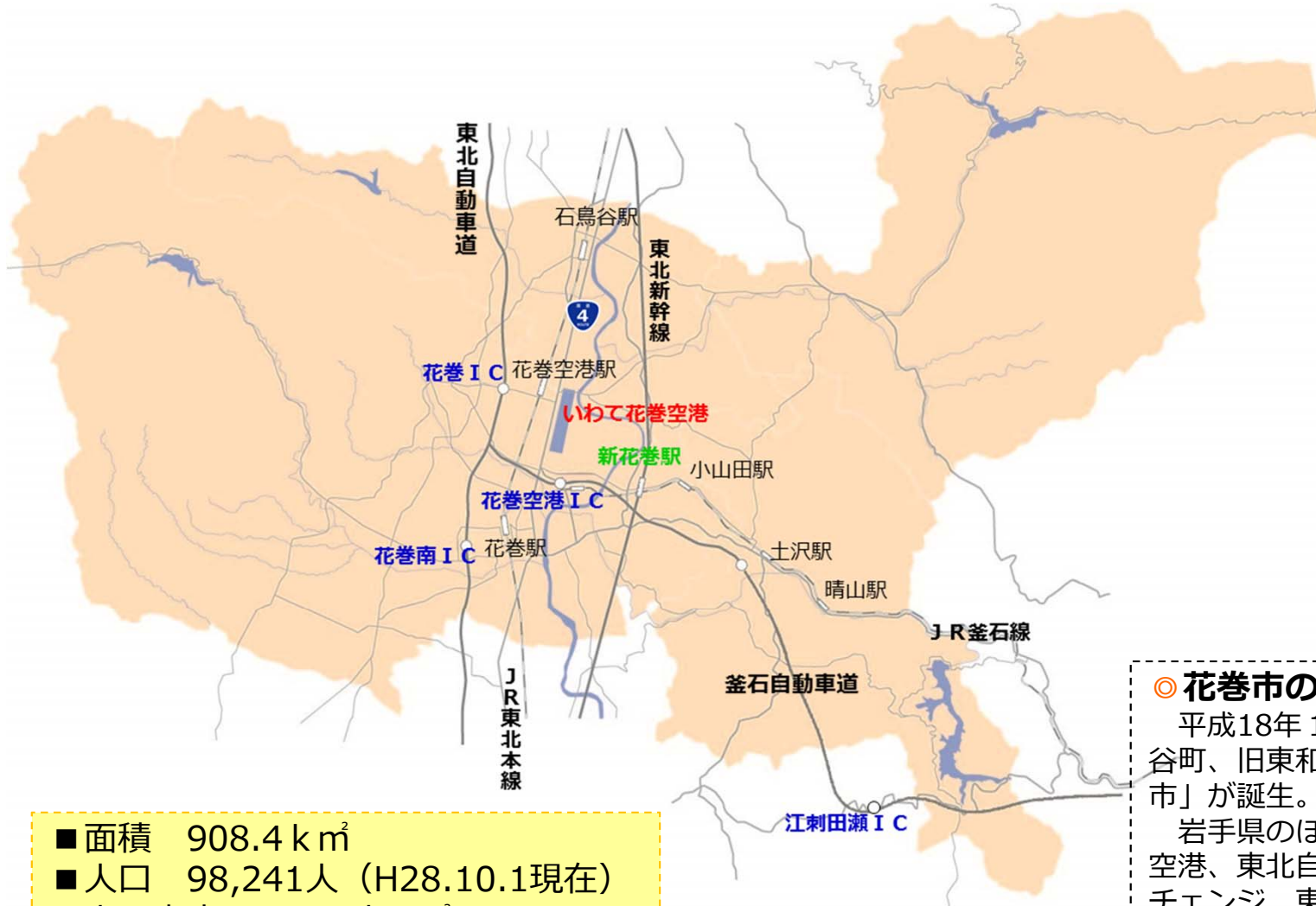


持続可能な公共交通網の形成に向けて ～路線バスから「花巻型予約乗合バス」への転換～



1. 花巻市の概要 ①プロフィール



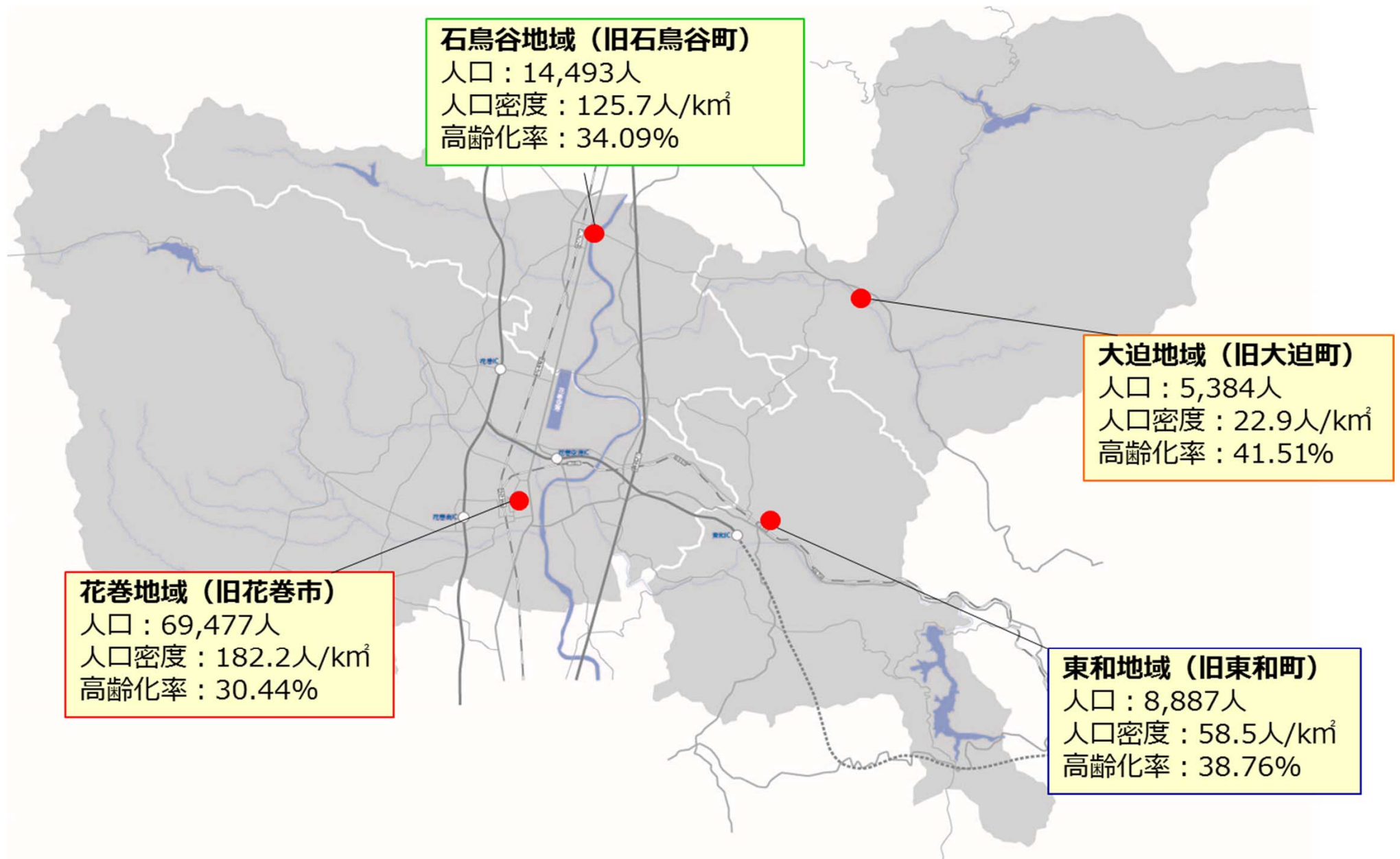
- 面積 908.4 km²
- 人口 98,241人 (H28.10.1現在)
- 人口密度 108.3人/km²
- 高齢化率 32.33% (65歳以上)

僕らは
花巻東高校出身!

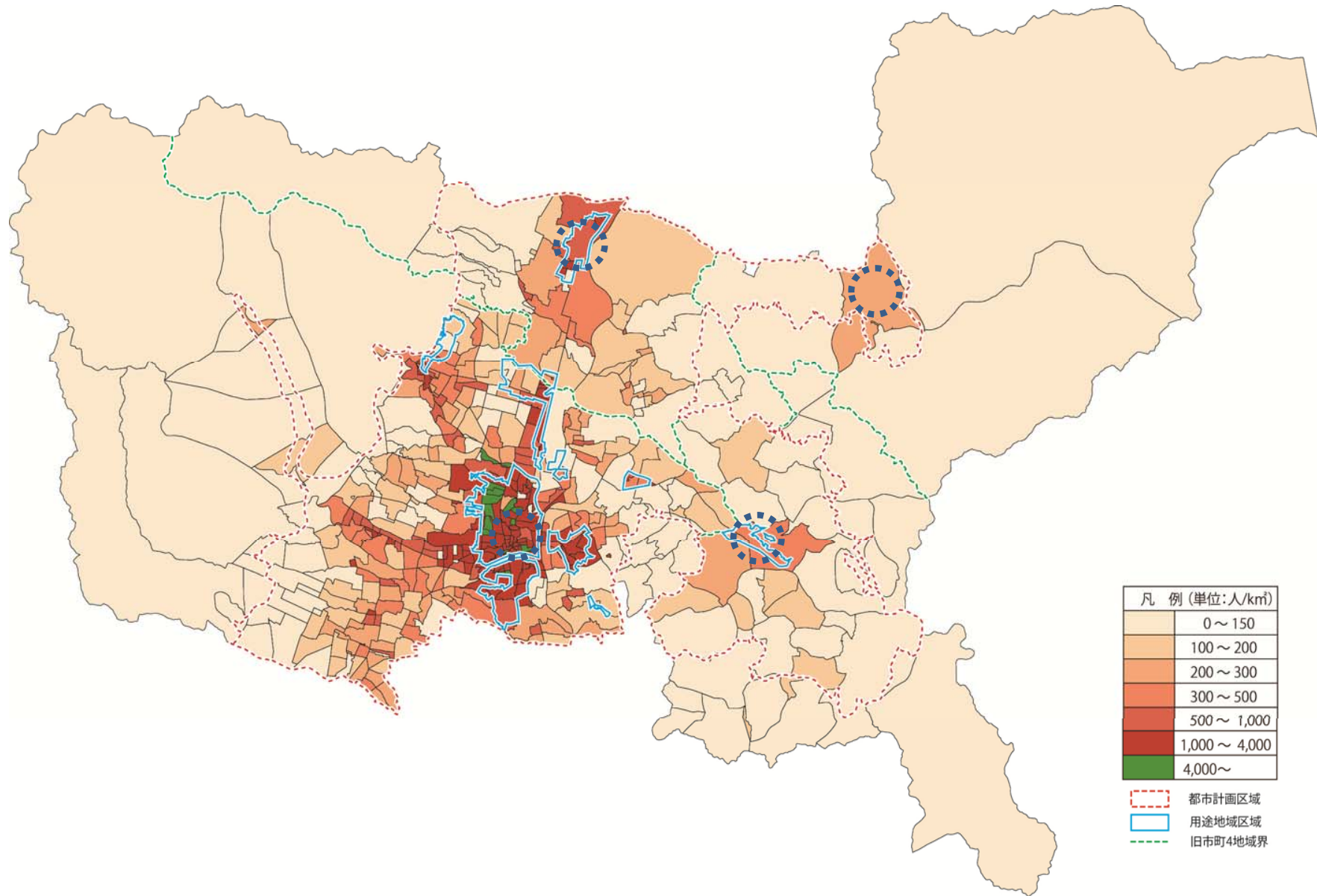


◎ 花巻市のプロフィール
平成18年1月1日、旧花巻市、旧大迫町、旧石鳥谷町、旧東和町の1市3町が合併し、現在の「花巻市」が誕生。
岩手県のほぼ中央に位置し、県内唯一のいわて花巻空港、東北自動車道・釜石自動車道の4つのインターチェンジ、東北新幹線新花巻駅を有し、さらには南北にJR東北本線、東部にJR釜石線が走っており、県内有数の交通の要衝となっている。
また、東北有数の温泉地を有し古くから物資の交易が盛んで、宮沢賢治や萬鉄五郎といった文化人を輩出するほか、ユネスコ無形文化遺産の早池峰神楽や鹿踊りといった伝統芸能が多数継承されている。

1. 花巻市の概要 ②合併前旧4市町ごとの現況

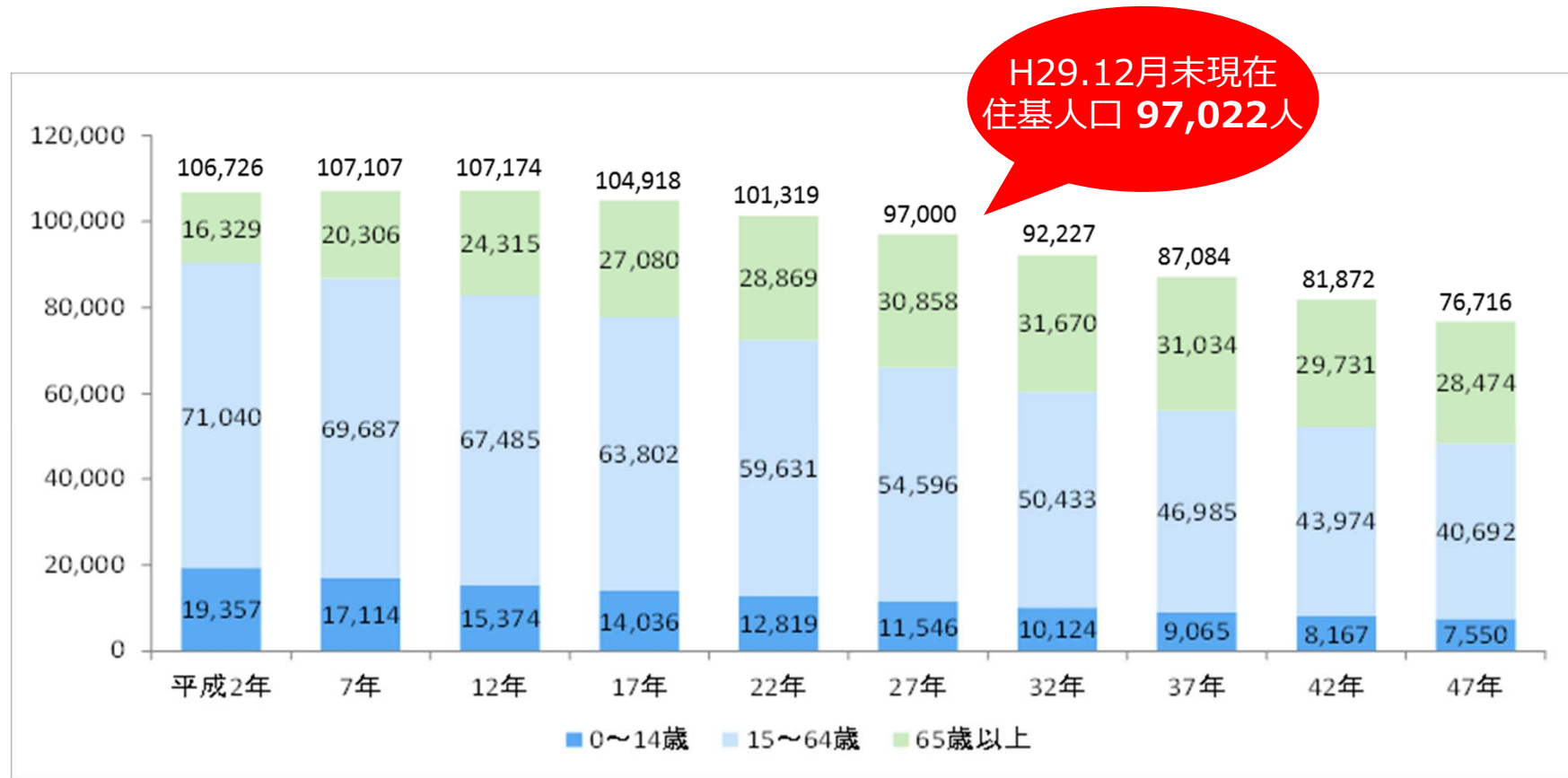


1. 花巻市の概要 ③人口密度分布



人口は、旧4市町それぞれの中心部にある程度集中しているが、小さい集落が広く点在している。

1. 花巻市の概要 ④人口推計



※各年国勢調査、平成27年以降は国立社会保障・人口問題研究会による推計に準拠した国の「まち・ひと・しごと創生本部」の推計（出生率固定、移動率低減推計）

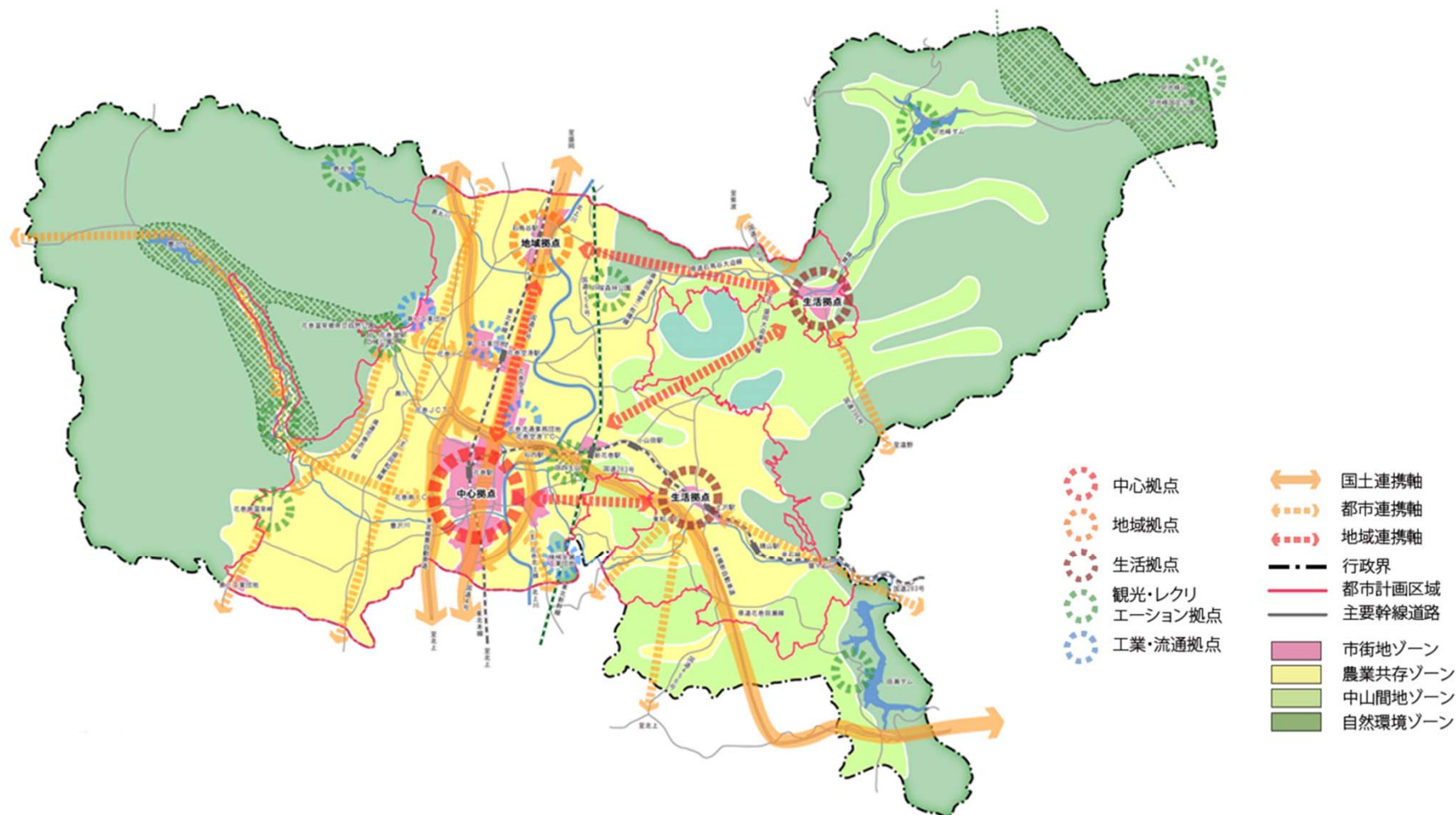
- ・総人口は、平成12年の107,174人をピークに減少傾向に転じ、平成47年には平成27年と比較して約2万人減少すると推計されている。
- ・一方で、65歳以上の高齢者人口の割合は増加し続け、平成47年には総人口の37.1%に上ると推計されており、公共交通を必要とする移動制約者は増加していくと考えられる。

2. まちづくりの方向 ～花巻市立地適正化計画の策定～



○花巻市立地適正化計画の策定（H28.6月）

合併前旧4市町単位におけるそれぞれの生活サービス機能を維持するため、居住誘導区域（花巻地域及び石鳥谷地域の一部の区域）と当該区域と密接に連動する地域の拠点（大迫地域、東和地域）を基軸に、居住と都市機能の分散を抑制。**公共交通による都市機能集積地の連携強化を行う「コンパクト・プラス・ネットワーク」の都市構造を構築**し、既存市街地の人口密度を保ちつつ、誰もが安心でき健康で快適に暮らせる持続可能な都市の形成を目指す。

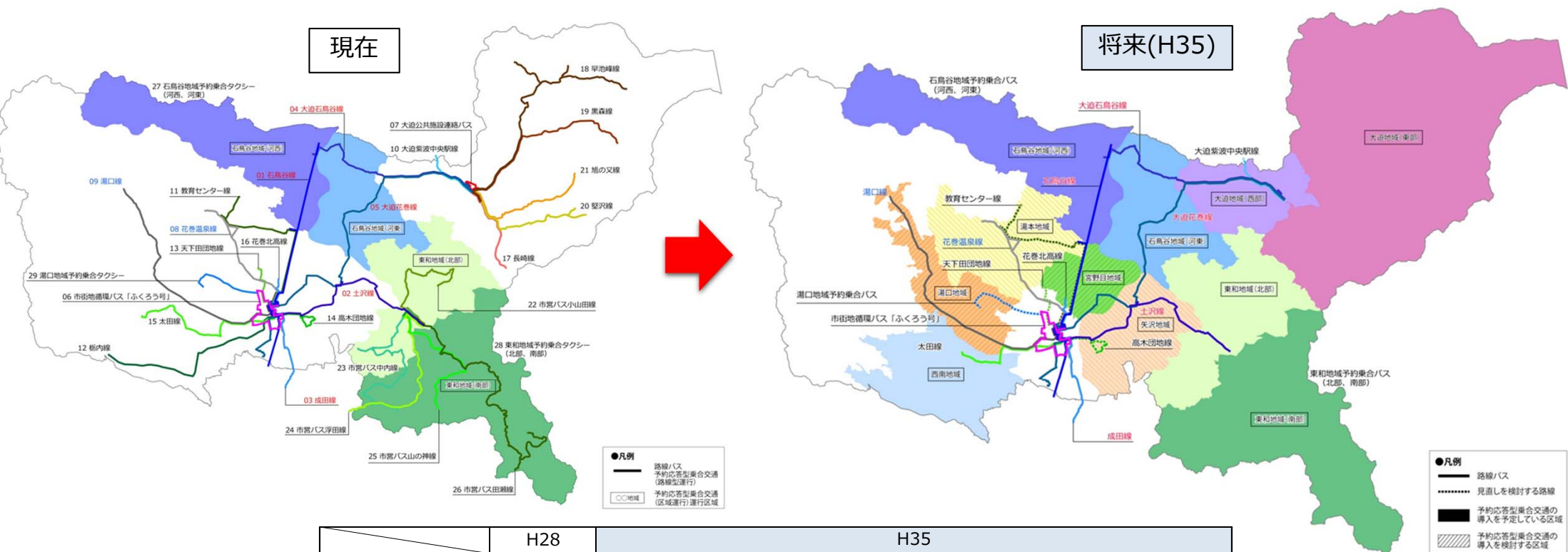


3. 公共交通の方向 ①花巻市地域公共交通網形成計画の策定



○花巻市地域公共交通網形成計画（H29.6月） ※計画期間：H29～H35年度

人口減少による低密度化、高齢化に伴う公共交通需要の増加、モータリゼーションの進行、運転手不足など事業者の経営環境の悪化等の公共交通を取り巻く環境の変化に対応するため、まちづくりと連携し、市民の安心・快適な生活をサポートする公共交通網を形成・維持していくこと、さらにそれが本市を訪れる観光客にとっても利便性の高いものとなることを目指す。



	H28	H35
幹線路線	5路線	5路線 ①石鳥谷線、②土沢線、③成田線、④大迫石鳥谷線、⑤大迫花巻線
循環路線	2路線	1路線 ⑥市街地循環バス「ふくろう号」
主要観光路線	2路線	2路線 ⑦花巻温泉線、⑧湯口線
支線路線	18路線	2路線 ⑨太田線（清風支援学校⇔花巻駅前）、⑩花巻北高線
計	27路線	10路線
予約応答型乗合交通運行地域	2地域	8地域 ①石鳥谷地域、②東和地域、③大迫地域、④西南地域、⑤矢沢地域、⑥湯本地域、⑦湯口地域、⑧宮野目地域 ※中央エリアを除く市域全域

※本表においては、湯口地区予約乗合タクシー（路線型）は支線路線として整理している。

3. 公共交通の方向 ②計画に掲げる事業

○花巻市地域公共交通網形成計画に掲げる事業 ～予約応答型乗合交通に関する事業～

事業① 予約応答型乗合交通の改善 (H29)

- 石鳥谷地域及び東和地域で運行している予約応答型乗合交通について、当日予約に対応したシステムを導入し、利便性の向上を図る。
- 運行曜日や便数等、運行内容の見直しを行う。

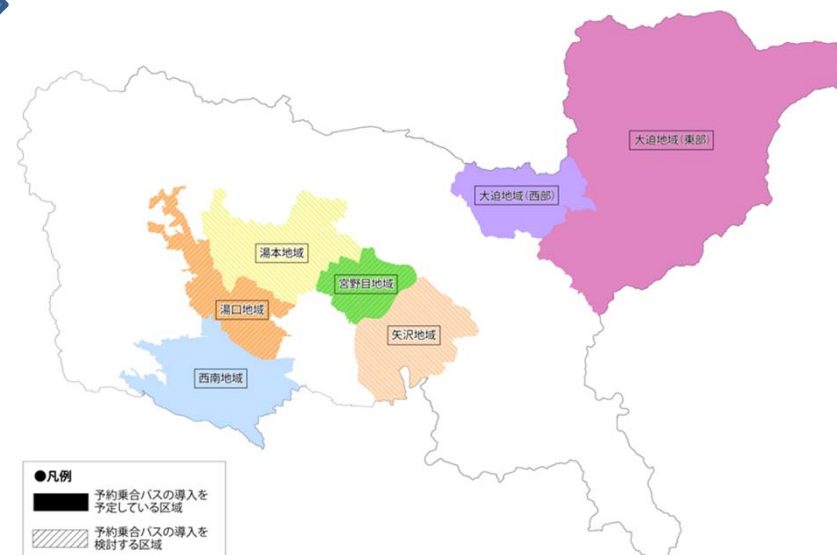
当日予約対応や増便等の要望への対応



事業② 予約応答型乗合交通の拡大 (H30～)

- 民間支線路線バスの廃止が見込まれる大迫地域及び西南地域について、順次、予約応答型乗合交通への転換を実施する。
- 矢沢地域、宮野目地域、湯本地域、湯口地域については、今後、事業者による民間支線路線バスの維持が困難になった場合に、順次、予約応答型乗合交通への転換を検討する。

民間支線路線バスの撤退への対応



3. 公共交通の方向 ②計画に掲げる事業



○花巻市地域公共交通網形成計画に掲げる事業 ~その他の事業~

事業③ 市街地循環バス「ふくろう号」の充実

円滑な乗り継ぎによる他の公共交通との相互利用を促進するとともに、さらなる利便性向上を図るため、運行ルートや運行便数等の見直しを行う。 (→H30年度：10便から20便への増便予定)

事業④ 地域間をつなぐ幹線路線の維持

市の中心拠点と地域拠点間（合併前旧4市町間地域間）を結ぶ地域連絡幹線路線、隣接市とを結ぶ広域連絡幹線路線について、国・県・市の運行費補助を活用しながら路線を維持する。 (→対象路線：5路線)

事業⑤ 主要な観光地を結ぶ路線の維持

中心市街地と主要観光地である花巻温泉郷を結ぶ路線について、バス事業者と連携した利用促進により路線を維持する。 (→対象路線：2路線)

事業⑥ 交通結節点の整備

主要な乗り継ぎ拠点へのベンチ設置や、施設の空きスペース等を活用した待合所の設置など、地域や民間事業者等との協働による待ち合い環境の改善に取り組む。 (→H30年度～：乗り継ぎポイントの「見える化」)

事業⑦ わかりやすい情報発信と利用促進

市広報紙のほかホームページ、FMラジオ、SNS等を活用した情報発信の強化、観光情報等とタイアップした親しみやすいバスマップ等を作成・配布など、公共交通情報の発信による利用促進を図る。 (→情報発信強化)

<石鳥谷地域>

【背景】

- ・地域内を2コース（河東、河西）に分けて周回運行していた「石鳥谷健康バス」（定時定路線型、2日/週、4便/日、運賃1回200円）の利用者が年々減少傾向→新たな交通システムの模索
- ・健康バスを利用しない理由として「乗りたい時間に乗れない」「行きたいところに行けない」「停留所が遠い」「乗車時間が長い（1周約90分）」などの声あり。
- ・近隣他市のデマンドタクシー事例を参考に導入を検討→タクシー業協同組合からの公共交通事業への参入の要望（日中のタクシー稼働率が低い時間帯の有効活用）とのマッチング

予約乗合タクシーの導入を開始
H20.10月～

<東和地域>

【背景】

- ・地域内を運行している市営バス5路線（定時定路線型、毎日運行、3～5便/日、運賃距離制）の利用者が年々減少傾向（特に日中の便）→効率的な運行方法の模索
- ・「より効率的な方法で運行すべき」「減便や廃止もやむを得ない」「スクールバスとしての機能を有している朝夕の便は継続運行すべき」などの声あり。
- ・市営バスの日中の便に替えて、石鳥谷地域と同様のデマンドタクシーの導入を検討→担い手としてタクシー業協同組合に加えて東和町総合サービス公社の参入

予約乗合タクシーの導入を開始
H22.10月～

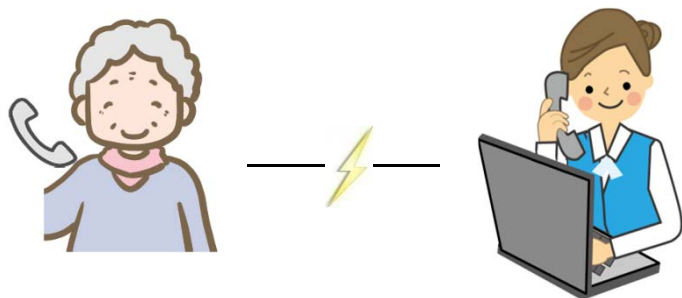
4. 予約乗合タクシーの導入 ②運行の概要

○予約乗合タクシーとは？

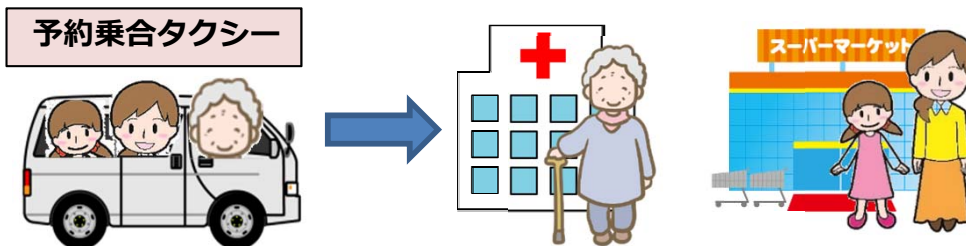
事前の電話予約に応じて、自宅付近と病院・スーパー・公共機関などあらかじめ目的地として決められている場所（指定乗降場所）との間、施設と施設の間を送迎する乗合の移動手段。

H20.10月から石鳥谷地域に、H22.10月から東和地域にそれぞれの区域運行方式で導入。（※H26.4月からは、湯口地域において廃止バス路線の代替として定時定路線型で導入。）

①事前に電話で予約



③乗合で目的地へ向かう

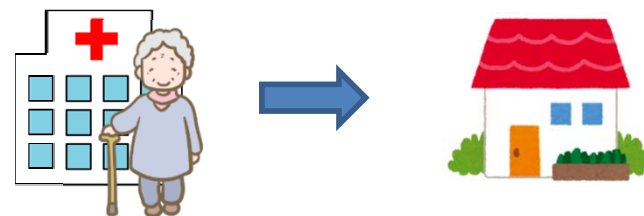


②予約した時間に車が自宅付近まで迎えに行く

予約乗合タクシー



帰宅も利用できる！



施設間の移動にも利用できる！



4. 予約乗合タクシーの導入 ②運行の概要

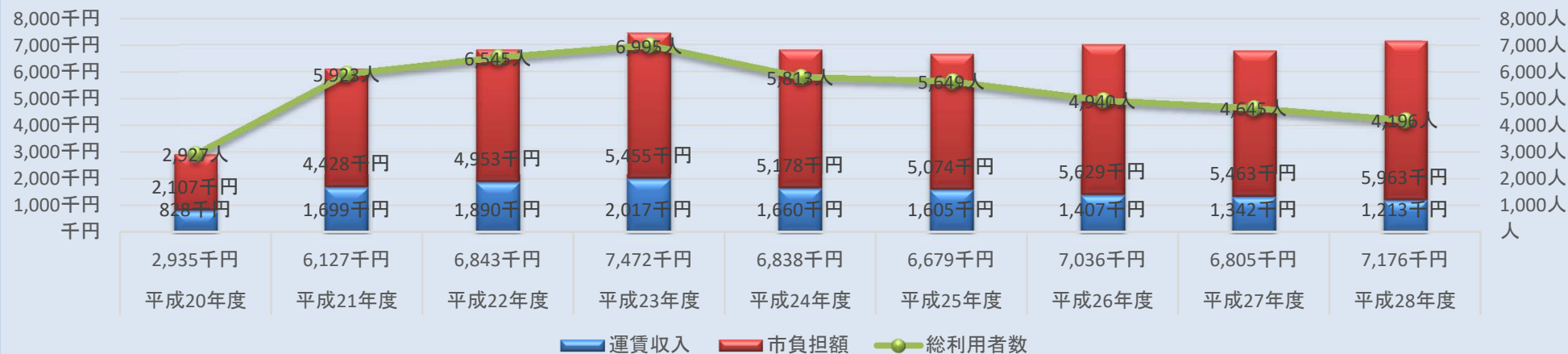


項目	石鳥谷地域	東和地域
名称	<u>石鳥谷地域予約乗合タクシー</u> (※システム導入なし)	<u>東和地域予約乗合タクシー</u> (※システム導入なし)
運行日	<u>週2日</u> (河東：月・木、河西：火・金)	<u>週3日</u> (北部：火・水・金、南部：月・水・木)
運行便数・時間	<u>1日4便</u> ①8:00 ②11:00 ③13:30 ④15:45	<u>1日3便</u> ①8:30 ②13:00 ③15:30
車両種別・台数	基本的に <u>ジャンボタクシー2台</u> (※予約状況に応じて車両増減)	基本的に <u>ジャンボタクシー2台+小型タクシー1台</u> (※予約状況に応じて車両増減)
利用方法	前日までに電話予約 (予約受付9:00~18:00 オペレーター常駐) ※事前に利用者登録が必要 (住所、氏名、電話番号、自宅付近乗降場所等)	前日までに電話予約 (予約受付9:00~18:00 オペレーター常駐) ※事前に利用者登録が必要 (住所、氏名、電話番号、自宅付近乗降場所等)
利用料金	<u>1乗車300円</u> ※小学生・障がい者は半額、幼児は無料	<u>1乗車400円 (但し同一地区内は300円)</u> ※小学生・障がい者は半額、幼児は無料
乗降場所	自宅付近の公道⇔指定乗降場所 (医療施設、商業施設、公共施設、金融機関等)	自宅付近の公道⇔指定乗降場所 (医療施設、商業施設、公共施設、金融機関等)
運行事業者	<u>花巻地区タクシー業協同組合 (3社)</u>	<u>花巻地区タクシー業協同組合 (1社) + 東和町総合サービス公社</u>
運行経費	運行経費： <u>運行単価 (地域設定)</u> × 運行便数 受付経費：受付経費 + 事務費	運行経費： <u>運行単価 (地域設定)</u> × 運行便数 受付経費：受付経費 + 事務費

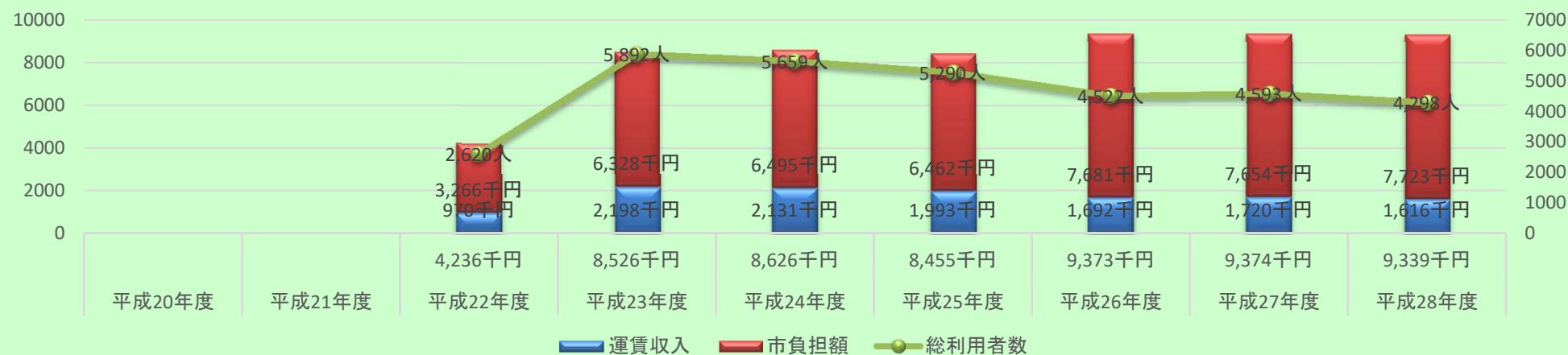
4. 予約乗合タクシーの導入 ③運行の実績



石鳥谷地域予約乗合タクシー運行実績(H20～H28)



東和地域予約乗合タクシー運行実績(H22～H28)



- 利用者数はH23年度をピークに減少傾向 → 利用者の固定化、新規登録者の減少、PR不足など
- 一方で運行経費に対する市の負担額は増加傾向 → 運賃収入の減少、運行契約単価の増加 (H26～) など

予約乗合タクシーの利便性の向上を求める声の高まり

- ・ 前日までに予約しなければならないのが不便。急な外出に対応できない。
- ・ 便が決まっていて好きな時間に利用できない。
- ・ 曜日が決まっていて乗りたい曜日に利用できない。
- ・ 登録や予約のシステムがわからない、難しい。

H29より改善に着手

(石鳥谷地域：H29.2月～、東和地域H29.10月～)

【改善のポイント】

- 当日予約への対応（システム導入）
- 運行日数及び運行時間の拡大
- 利用料金の見直し
(※全市的な拡大を視野に)

利便性の向上
新規利用者の拡大
利用料金の統一

「予約乗合タクシー」から
「予約乗合バス」へ
バージョンアップ!!!



5. 花巻型予約乗合バスへの転換 ①従来からの変更点



★「予約乗合バス」の特徴 ～従来型からの変更点～

変更点① 当日予約への対応

オンデマンド交通システム「コンビクル」を導入することで、当日の1時間前までの予約に対応。
(※従来は、前日の午後6時までに予約の上、当日の迎え時間の折り返し連絡を待つ必要があったが、システム導入により、迎え時間の連絡を予約時に行うことが可能になった。)

変更点② 運行日数及び運行時間の拡大

運行日数及び運行時間を拡大するとともに、地域間不均衡を解消。

【石鳥谷地域】

	変更前	変更後
運行日数	<u>週2日</u> (河東：月・木、河西：火・金)	<u>週3日</u> (河東・河西ともに火・木・金)
運行時間	<u>1日4便</u> ①8：00 ②11：00 ③13：30 ④15：45	<u>午前8時から午後5時までのフリー運行</u> <u>※好きな時間に利用ができる。</u>

【東和地域】

	変更前	変更後
運行日数	<u>週3日</u> (北部：火・水・金、南部：月・水・木)	<u>週3日</u> (北部・南部ともに月・水・金)
運行時間	<u>1日3便</u> ①8：30 ②13：00 ③15：30	<u>午前8時から午後5時までのフリー運行</u> <u>※好きな時間に利用ができる。</u>



変更点③ 利用料金の見直し

利用料金を値上げし、地域間不均衡を解消。

(※ただし、運行経費に対する利用者負担率は、従来の二割程度から一割程度に低下。)

【石鳥谷地域】

	変更前	変更後
利用料金	<u>1乗車300円</u> (小学生・障がい者は半額、幼児は無料)	<u>1乗車400円</u> (小学生・障がい者は150円、幼児は無料)

【東和地域】

	変更前	変更後
利用料金	<u>1乗車400円(但し同一地区内は300円)</u> (小学生・障がい者は半額、幼児は無料)	<u>1乗車400円</u> (小学生・障がい者は150円、幼児は無料)

変更点④ 事業名称の変更

事業名称を「予約乗合タクシー」から「予約乗合バス」に変更。

(※名称が「タクシー」であることから、通常のタクシーと同様のサービス(荷物運搬や乗降補助など)が受けられないことに対する不満がタクシー会社に寄せられていた現状を受け、あくまでバスと同様の乗り合い運行であることを周知する目的で名称を変更。)



変更点⑤ 車両借上げ方式の変更

運行車両について、1便あたりの運行単価方式から1日あたりの車両借上げ単価方式に変更。

【石鳥谷地域】

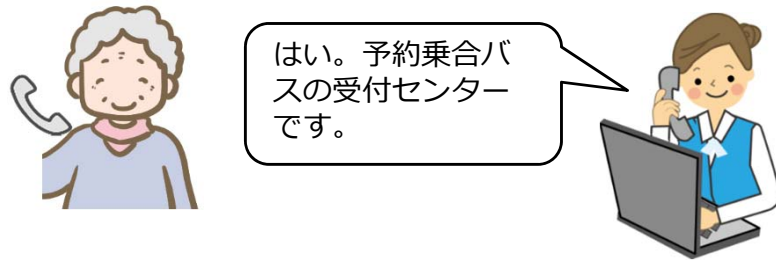
	変更前	変更後
借上げ方式	<u>1台/便あたりの運行単価方式</u>	<u>1台/日あたりの車両借上げ単価方式</u>
車両借上費	1台/便あたり単価×運行便数	1台/日あたり単価×運行日数
借上げ台数	<u>ジャンボ2台(随時)</u> (※予約状況に応じて台数増減あり)	<u>ジャンボ3台(常時)</u> (※予約の有無に関わらず常時借上げ)
その他経費	受付経費及び事務費	受付経費及び事務費

【東和地域】

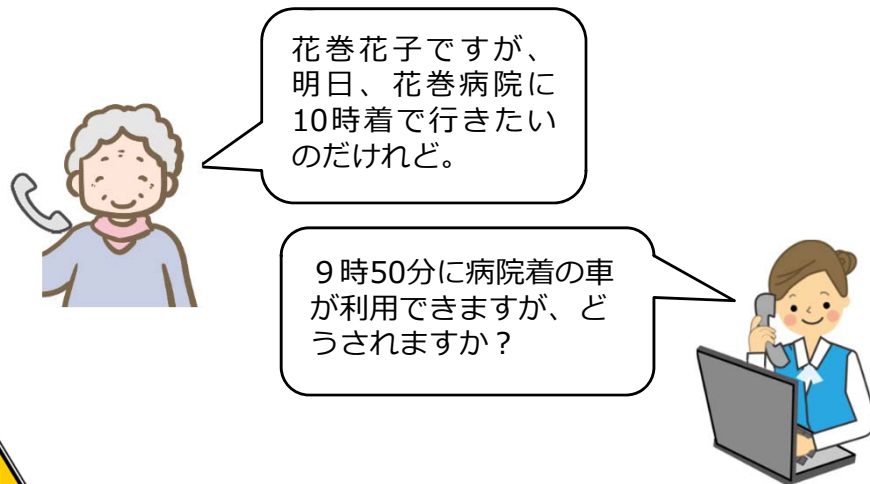
	変更前	変更後
借上げ方式	<u>1台/便あたりの運行単価方式</u>	<u>1台/日あたりの車両借上げ単価方式</u>
車両借上費	1台/便あたり単価×運行便数	1台/日あたり単価×運行日数
借上げ台数	<u>ジャンボ2台+小型1台(随時)</u> (※予約状況に応じて台数増減あり)	<u>ジャンボ4台(常時)</u> (※予約の有無に関わらず常時借上げ)
その他経費	受付経費及び事務費	受付経費及び事務費

<予約のイメージ>

- ① 受付センターへ電話をする
(利用したい時間の1時間前までに)



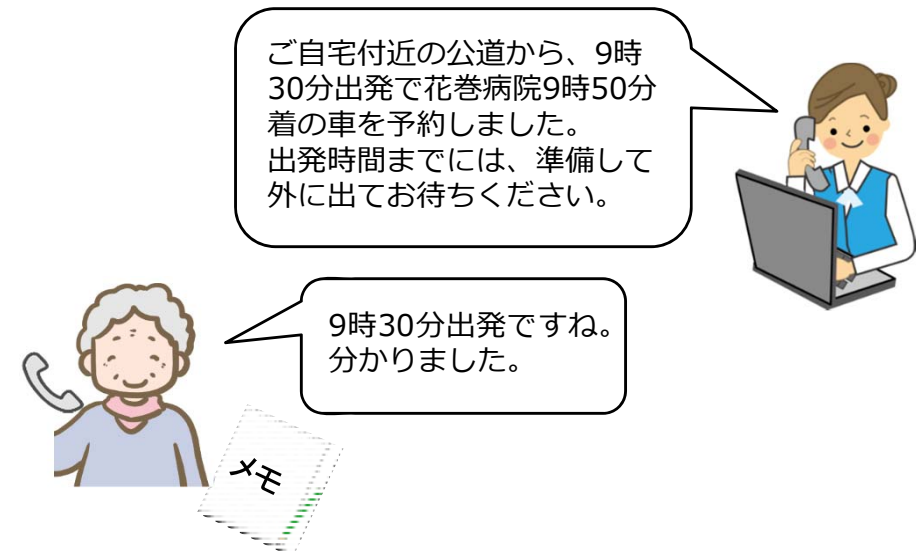
- ② 名前、利用したい日と時間、目的地を伝える



- ③ 予約を決定する (又は別の時間を選択する)



- ④ 出発時間を確認する (メモをする)



※かけた電話で出発時間も分かるため、今までのように折り返しの電話を待つ必要がない。
※混雑時等、利用したい時間に車両が空いていない場合は別の時間を提案。



<指定乗降場所>

利用者共通の目的地として、病院やスーパー、公共施設等を「指定乗降場所」としてあらかじめ設定。

	石鳥谷地域	東和地域
公共施設（行政機関）	19	19
医療機関	12	8
交通機関	4	5
金融機関	8	10
商業施設	6	5
観光施設	—	5
その他公的施設	7	4
計	56	56

※一部地区限定の指定乗降場所あり。

☞追加要望のある施設等

特別養護老人ホーム、寺院の追加要望があるほか、地区限定区分の撤廃要望もあり。

5. 花巻型予約乗合バスへの転換 ④利用上のルール



①利用登録申請

利用にあたっては、事前に利用登録申請が必要。

◆申請条件：運行地域内に住所又は住居を有する者及びその家族等

記載例

予約乗合バス（東和地域限定）
利用登録申請書

受付No. _____

自宅住所（※この登録場所付近の公道が乗降場所となります。）	世帯主	電話番号
花巻市東和町 成島1-23	東和 一郎	42-8888

フリガナ	ご利用される方のお名前	性別	携帯電話番号 (携帯電話をお持ちの方)	備考
1	東和 一郎	男・女	090-1234-5678	
2	東和 花子	男・女		
3		男・女		
4		男・女		
5		男・女		

その他、知っておきたい事項

※申請書は、東和地域の各振興センター、東和総合支所地域振興課、本庁建設部都市政策課に提出願います。
 ※自宅付近の公道から乗降できます。一般タクシーとは違い、自宅の門口までは入りませんのでご了承ください。
 ※登録できる自宅付近の乗降場所は、一人1ヶ所のみです。
 ※上記の自宅住所と住民登録上の住所が違う場合は、住民登録上の住所を備考欄に記載ください。

申請書は、郵送又はファックス、Eメールでも提出できます。なお、この場合は、自宅付近の乗降場所の確認のため、こちらから確認のご連絡をさせていただきます。

- ・郵送でのお申込みは、〒025-8601 花巻市花城町9-30 花巻市建設部都市政策課 公共交通係
- ・FAXでのお申込みは、22-6846
- ・Eメールでのお申込みは、toshiseibi@city.hanamaki.iwate.jp

※お問い合わせは、花巻市建設部都市政策課（電話24-2111内線562）までお願いします。



- <申請方法>**
- 受付窓口での申請
 - ・地域内の各振興センター
 - ・地域内の総合支所窓口
 - ・本庁建設部都市政策課窓口
 - 郵送、ファクス、Eメールでの申請
 - 本庁建設部都市政策課宛てに送付



(表)

予約乗合バス
～みんなであって、地域で支える公共交通～

予約受付 ☎ 23-0300

(裏)

利用登録カード

No. 001

お名前 東和 一郎

- ご乗車の際は、このカードを携帯ください。
- カード紛失の際は、下記までご連絡ください。

花巻市建設部都市政策課
TEL(0198)24-2111

②自宅付近公道での乗降

自宅から利用する場合の乗降場所は、自宅付近の除雪が入る公道で安全に乗降できる場所としている。（自宅の敷地内や除雪の入らない道路、車両の回転が必要ところへの侵入は行わない。）



③乗降時の介助や荷物運搬は不可

道路運送法第4条乗合バス免許での運転であることから、介助を要する方が乗車する際は、介助者の同乗を求めている。また、車内に持ち込むことができる荷物は、自分で運べてかつ自席で抱えられる大きさまでとしている（手押し車も同様）。

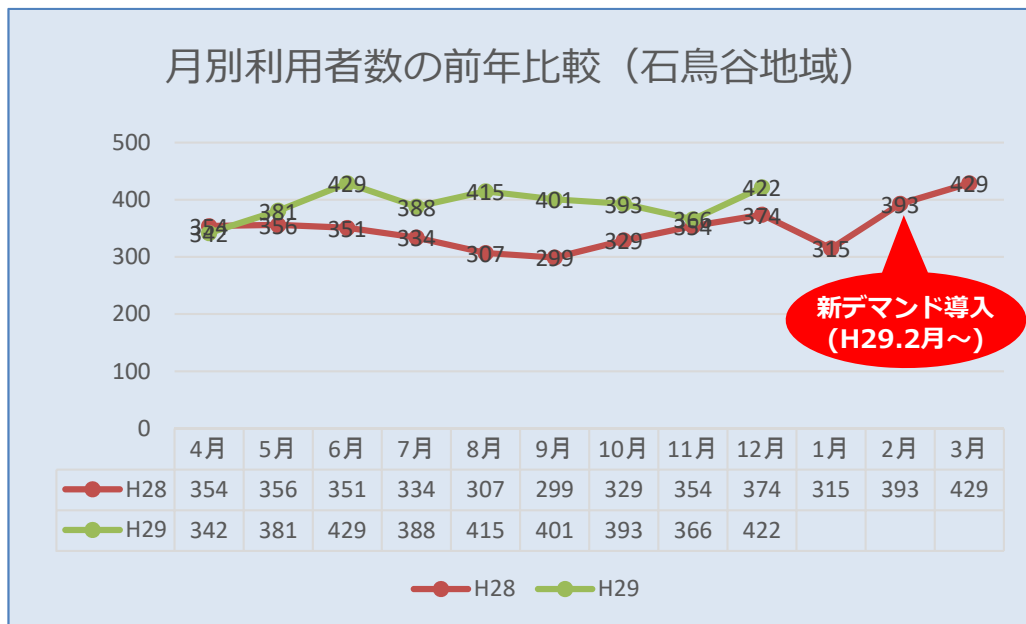
あえて不便さを残して一般タクシーとの差別化を → 共存のポイント！

6. 花巻型予約乗合バスへの利用実績

①利用者数・登録者数

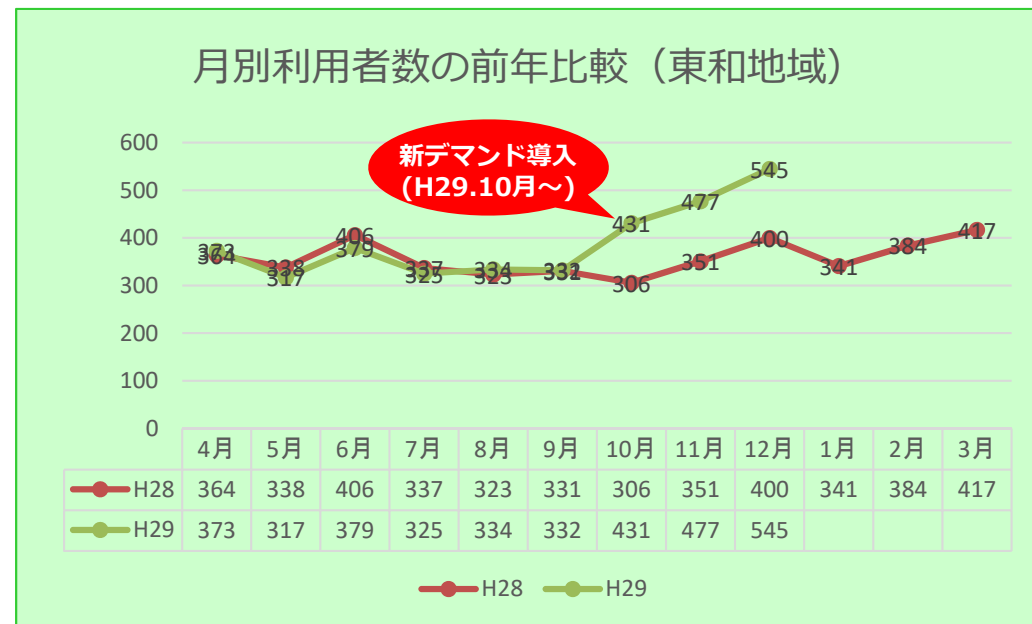


<利用者数・登録者数の状況> (H29.12月末現在)



- 新デマンド導入後平均利用者数：396人/月、31人/日
- 1日あたり最大利用者数：52人

	導入前	導入後	新規増加
登録者数	559人	721人	162人



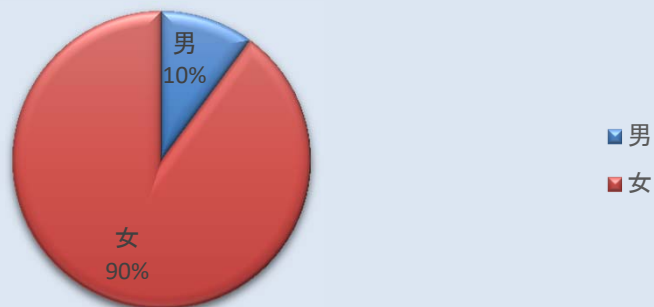
- 新デマンド導入後平均利用者数：484人/月、37人/日
- 1日あたり最大利用者数：60人

	導入前	導入後	新規増加
登録者数	953人	1,172人	219人

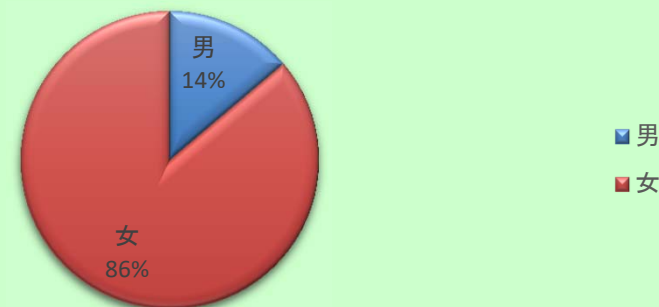
- ・ いずれの地域においても新デマンド導入後に利用者数・登録者数が増加している。
(石鳥谷地域 = 対前年比約116%、東和地域 = 対前年比約137%)
- ・ 予約総数に対する当日予約数の割合は、いずれの地域においても約3割となっている。
- ・ 東和地域で利用者が多いのは、周知PR機会が多かったことの効果か？

<利用者の属性>

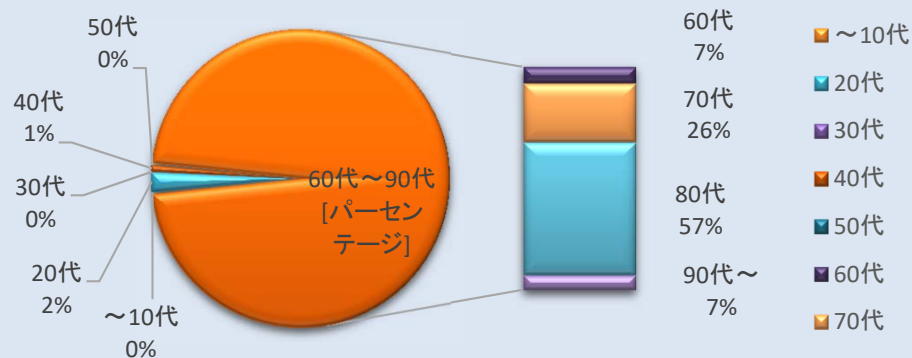
利用者の男女別構成（石鳥谷地域）



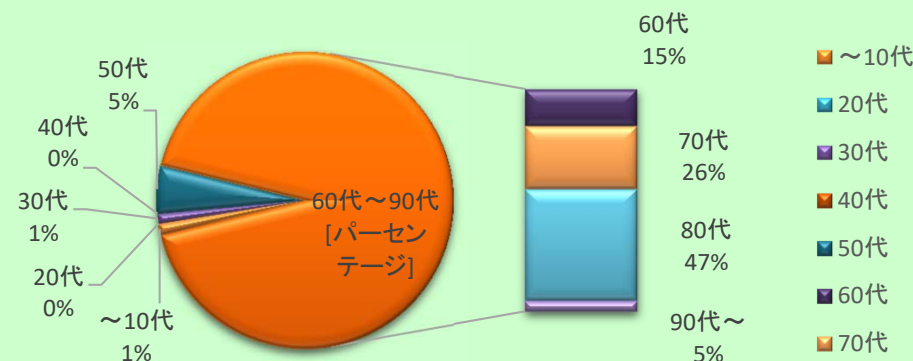
利用者の男女別構成（東和地域）



利用者の年代別構成（石鳥谷地域）



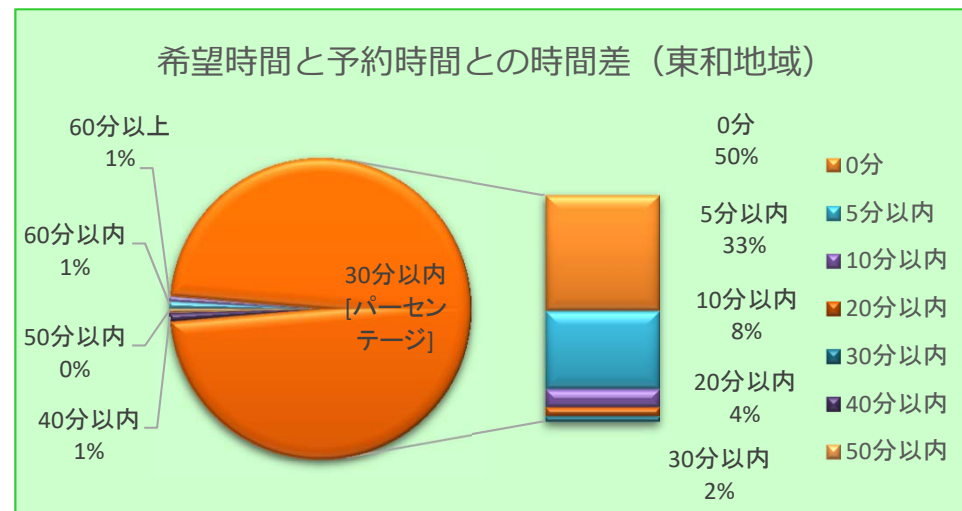
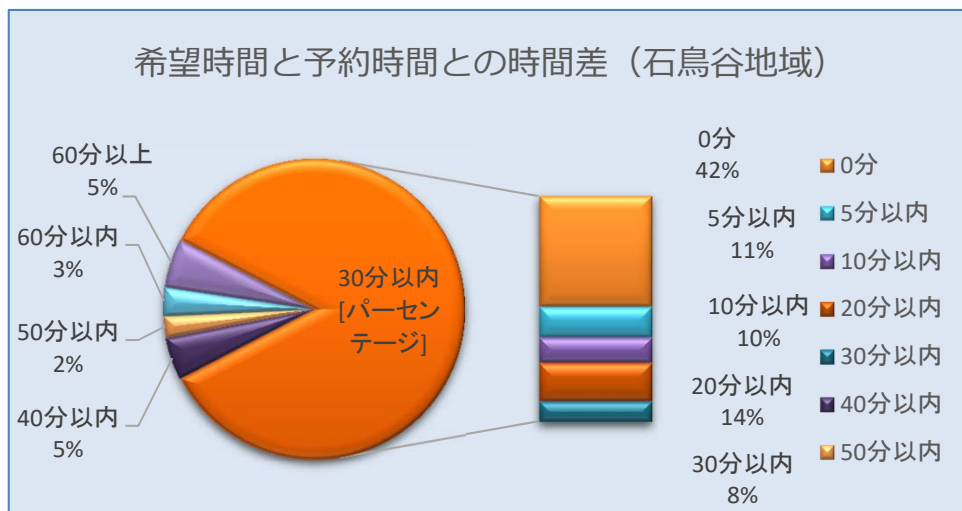
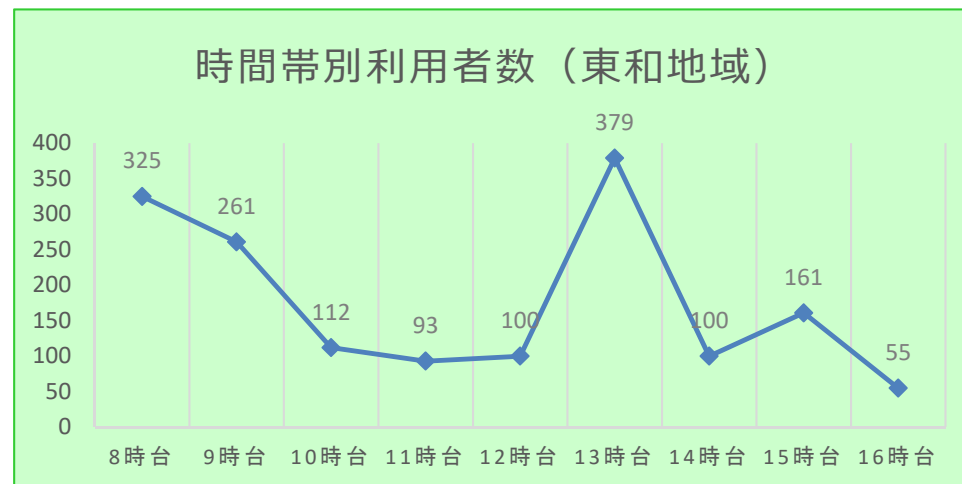
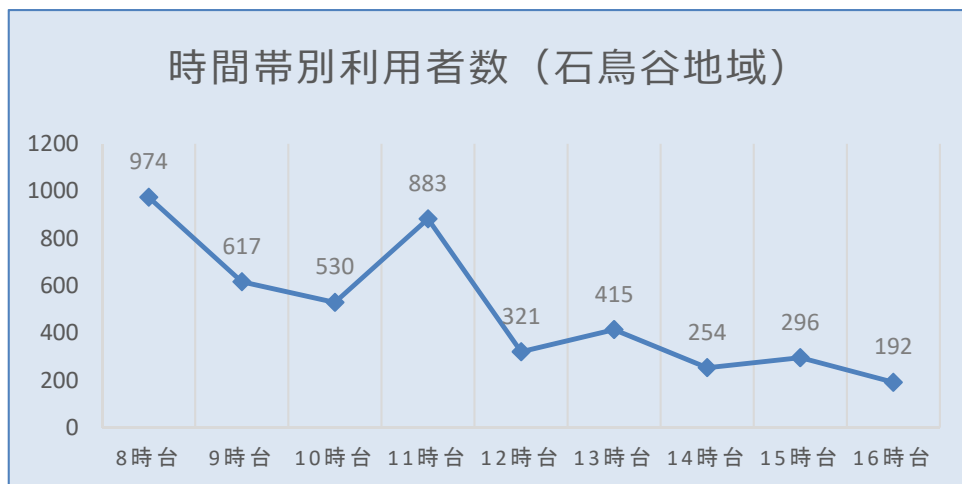
利用者の年代別構成（東和地域）



- ・ いずれの地域においても、男女別では約9割が女性となっている。
- ・ いずれの地域においても、年代別では、60代以上が9割以上を占めている。



<時間帯別利用者数及び希望時間との時間差>

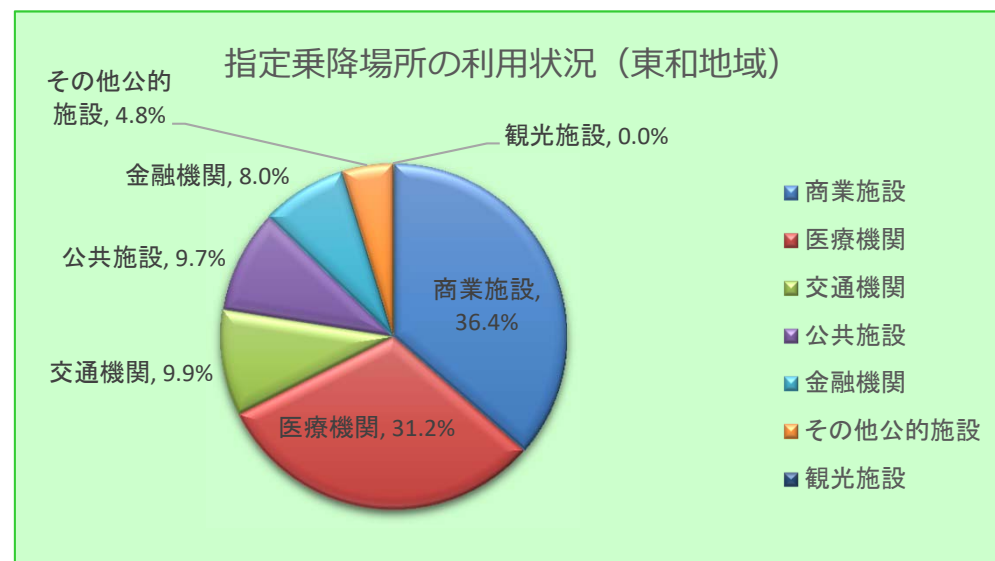
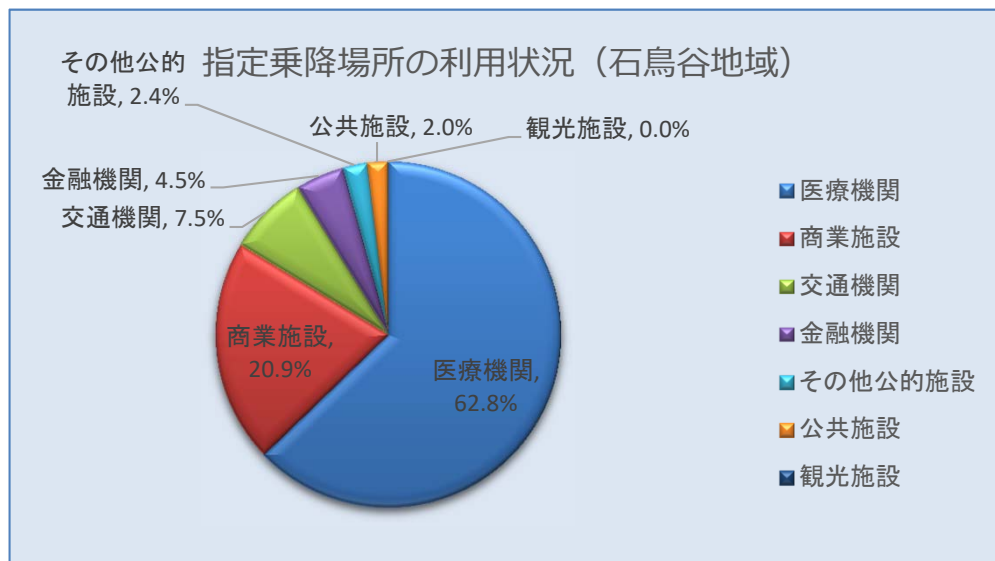


・時間帯別利用状況について、石鳥谷地域では8時台と11時台、東和地域では8時台と13時台がピークとなっている。いずれの地域においても旧デマンドの便時間での利用の名残りがあると思われる。

・希望時間と実際の予約時間との時間差について、いずれの地域においても、希望通りが約半数となっており、希望どおりではなくても概ね30分以内の時間差に収まっている。



<指定乗降場所別の利用状況>



順位	施設名	区分	割合
1	石鳥谷医療センター	医療機関	23.0%
2	マックスバリュ石鳥谷店	商業施設	10.5%
3	金子整形外科医院	医療機関	7.3%
4	石鳥谷駅	交通機関	6.8%
5	ジョイス石鳥谷店	商業施設	6.0%
6	いしどりや眼科	医療機関	5.7%
7	さとう消化器科内科クリニック	医療機関	5.2%
8	石鳥谷駅前クリニック	医療機関	5.0%
9	キクコーストア石鳥谷店	商業施設	3.9%
10	桜井歯科医院	医療機関	3.2%

順位	施設名	区分	割合
1	県立東和病院	医療機関	19.8%
2	Aコープとうわ店	商業施設	19.0%
3	ベルプラス東和店	商業施設	14.3%
4	JR土沢駅	交通機関	8.7%
5	旧東和コミュニティセンター	公共施設	5.5%
6	織笠内科医院	医療機関	5.1%
7	岩手銀行土沢支店	金融機関	4.4%
8	東和郵便局	金融機関	3.4%
9	多田歯科医院	医療機関	2.9%
10	おぼら歯科医院	医療機関	2.5%

- いずれの地域においても医療機関と商業施設を目的とした利用が多数を占めている。
- 石鳥谷地域における目的施設別の第1位は、医療機関（62.8%）で、東和地域では商業施設（36.4%）となっており、割合には地域差がみられる。
- JR駅までの利用も上位であり、他地域へ向かうための乗り継ぎ手段としての利用も多い。



<乗り合い運行の状況>

項目	石鳥谷地域 (H29.2.1~12.31)	東和地域 (H29.10.1~12.31)
便総数	2,927便	686便
乗合成立便数	1,037便	369便
乗合成立率	35.4%	53.8%
最大乗合人数	5人	8人

※便数 = 1台/日の運行の中で、「乗車→降車」の一連の組み合わせが一旦途切れた場合を1便として算出している。(実際の制度上はフリー運行で便の設定はない。)

- ・ 乗合成立率は、石鳥谷地域で35.4%、東和地域で53.8%となっており、東和地域の方が高くなっている。
- ・ 1便あたりの最大乗合人数は、石鳥谷地域で5人、東和地域で8人となっており、東和地域の方が高くなっている
- ・ 東和地域で乗合率が高いのは、東和地域の一部エリアにセミデマンド方式を試験的に導入している効果か？

7. 利用促進に向けた取り組み

① 地域説明会・意見交換会の実施

- ・ 振興センター単位や行政区単位での実施
→ 東和地域では6振興センターのほかに25行政区×3回の説明会を実施 (※数多くが効果的?)
- ・ 地区行事や老人クラブ、福祉サロン等に出向いての実施
→ 利用者層が同じで確実に人が集まる
- ・ 地域協議会や民生委員協議会での実施
→ 地域リーダーとの情報共有及び連携

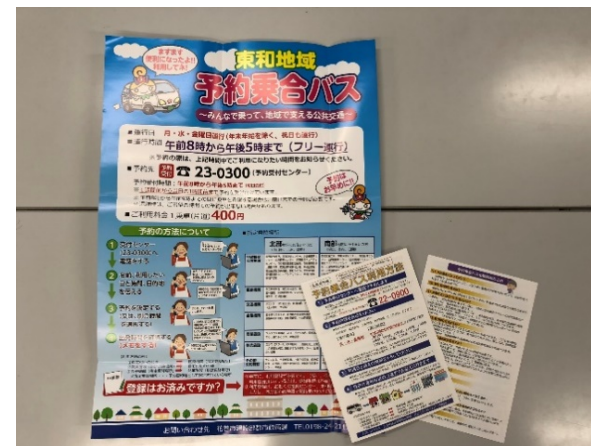


② 登録窓口の拡大

- 利用登録申請の受付窓口として、地域コミュニティの活動拠点である各振興センターを追加
→ 地域との協力体制の確立

③ ポスター・チラシ配布、広報紙等への掲載

- 医療機関、商業施設、公共施設、自治公民館等へのポスター配布、チラシの全戸配布、市広報紙や各コミュニティだより等への記事掲載
→ 制度周知と利用促進



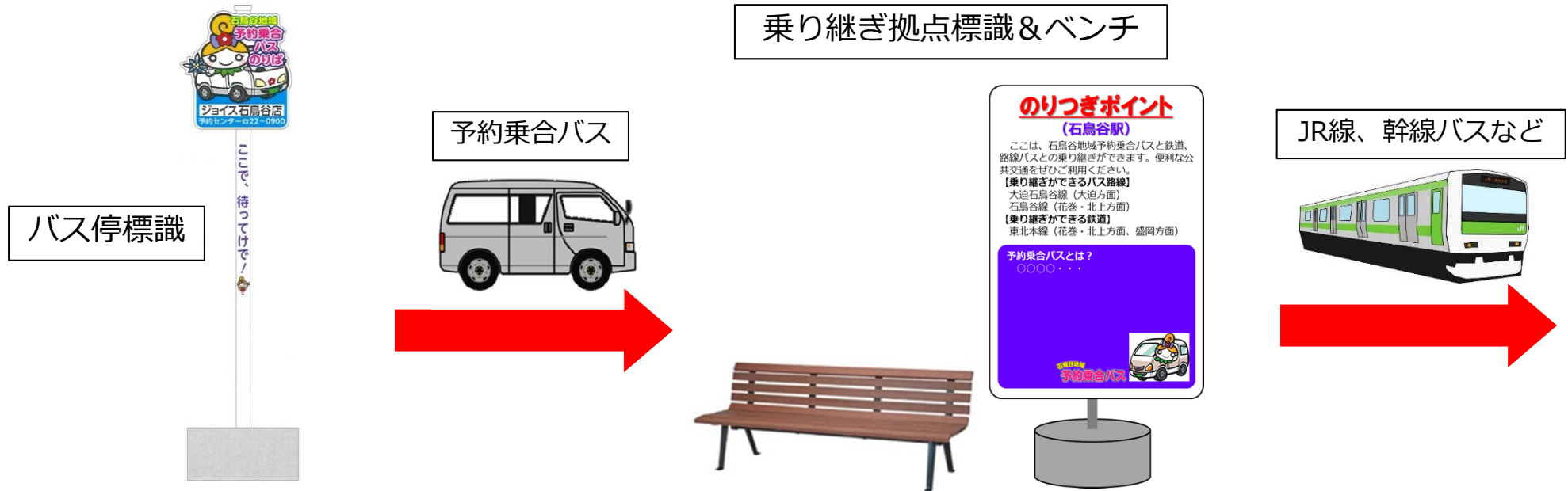
7. 利用促進に向けた取り組み

④ 「見える化」事業

予約乗合バスのバス停標識を主な指定乗降場所数か所に設置（H29～）。また、予約乗合バスと他の公共交通とをつなぐ結節点に乗り継ぎ拠点標識とベンチを設置（H30～）。

→施設規模の大きい指定乗降場所での乗り場所を明確化

→目立つ標識を設置することで予約乗合バスの運行エリアであることをPR = 「見える化」



⑤ その他検討中の新たな取り組み

地域要望等を踏まえ、利便性向上に向けた新たな取り組みを現在検討中。

→試乗会の実施、チケット制の導入、運行区分の撤廃、指定乗降場所の追加など

8. 今後の課題

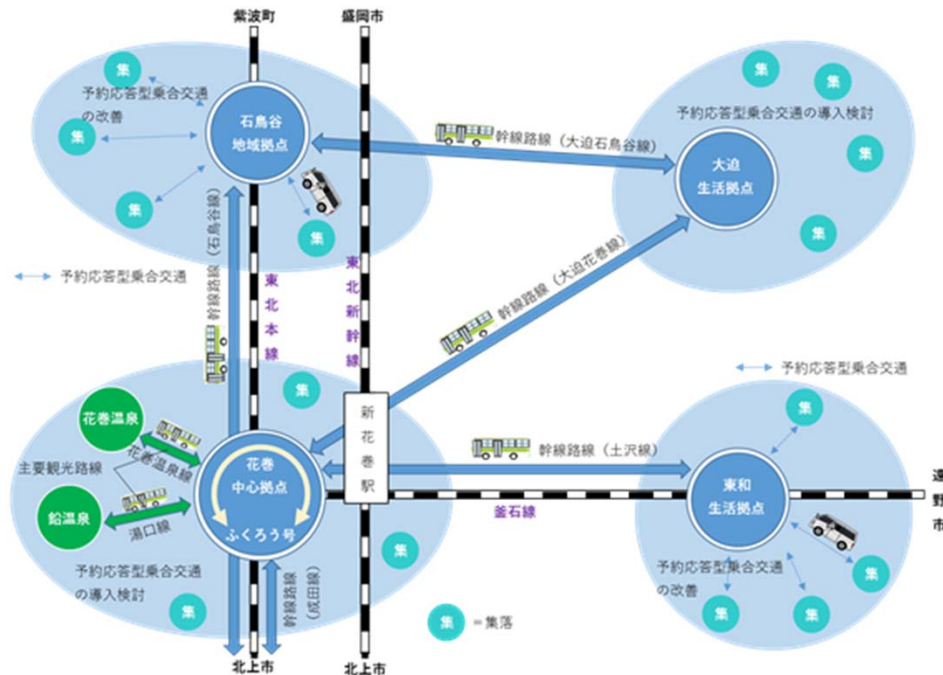
① 車両及び運転士の確保

将来的に予約乗合バスの全市的な拡大を見込んでいるなかで、車両及び運転士の確保について、事業者と協議を重ねていく必要がある。なお、車両については、利用需要や乗合状況を分析の上、最も適した車両種別の選択（ジャンボなのか、小型セダンなのか、4WDは必須など）、車両購入に対する補助金等を検討していく必要がある。

	現在 (H29)		将来想定 (H35)
導入地域	2地域	➔	導入地域 8 地域
必要車両	ジャンボ7台		必要車両 ジャンボ+小型 = 21 台

② 他地域への直行便運行要望への対応

予約乗合バスは、原則として各導入地域内での移動のみとしているが、他地域にある中核病院や大型ショッピングセンターに直接行けるようにしてほしいとの要望も多い。乗り合いの効率性、幹線路線の維持（路線競合の回避）の観点から現時点では認めていないが、今後の需要を見極めながら、総合的に検討していく必要がある。



③朝・夕の移動手段の確保

予約乗合バスの運行時間は午前8時から午後5時までとしていることから、路線バスから予約乗合バスに転換した地域では、朝・夕の移動手段の確保が課題となっている。（※路線バスでは朝7時台、夕方5時台のバスが運行していた）

（現状）石鳥谷地域：対応なし

東和地域：スクールバスへの一般混乗制度の導入（H29.10.1～）

（課題）路線バス運行をしても利用が極めて少ないが、なければ通勤・通学利用は不可能。
予約乗合バスの運行時間拡大は、事業者の対応が難しい。

④山間部への対応

各地域の中心部から離れた山間部は、道路が狭隘で、冬期間は圧雪や凍結状態になることが多く、予約乗合バス車両の進入が難しい地域も少なくない。原則として「除雪車が入る場所には行く」としているが、除雪が入る場所であっても安全面を考慮して他の場所での乗降をお願いしている場合もあることについて周知していく必要がある。（※H30導入予定の大迫地域は山間部が多くを占めている。）

⑤全市的均衡性の確保と地域特性・意向に応じた運用とのバランス調整

予約乗合バスの全市的拡大にあたっては、原則として現行方式（平日3日、8時17時のフリー運行、1乗車400円）での導入としているが、地域特性や住民意向を考慮した運用についても検討していく必要がある。

例）セミデマンド方式の併用、運行曜日や時間の変更、利用料金の見直し etc…

⑥モータリゼーションが進行するなかでの公共交通サービス供給量のあり方

公共交通全般について「鶏が先か卵が先か」（不便だから乗らない⇔乗らないから不便になる）の議論から抜け切れずに負のスパイラルが生じている。本当に必要とする人のために公共交通サービスを維持していくには、自家用車があたりまえの現状の中にあって、少しでも公共交通を使う文化を醸成していくための仕掛け（きっかけづくり）が必要となっている。

例) 子供が乗りたくなるラッピング車両の導入
大人が便利な「夜の街」とタイアップした公共交通運行 etc…

今後さらに…

元気に車を運転する高齢者が増加

(主要ターゲットが高齢者だけでは維持できなくなる…)

利用者ニーズを捉えた本当に必要なサービスの提供で、
ジャンルを超えた柔軟な発想で、



持続可能な公共交通網形成の実現を！

♪ 花巻へぜひお越しください！

宮沢賢治、高村光太郎ゆかりの地



花巻温泉郷



SL銀河



早池峰神楽

マルカン大食堂



ご清聴
ありがとうございました。

